

政府も労働組合も真実をごまかしている エルダー再雇用は会社の義務

政府は「少子高齢化は効率化のチャンス」と言い、JRは「選択と集中」「水平分業」へのめり込んでいる。水平分業とは全面外注化であり、JRの正規雇用を低賃金・総非正規雇用に叩き

込んでいる。JRには多くの労働組合があり、正当性を主張して労働者を囲い込んでいる。だがはつきり言おう。動労水戸以外の組合は会社と決して闘わない。「正面から闘ったらおしまいだ」「ストライキをやるのは自己満足だ」と言っ。しかしそれは真実だろうか？

職場の仲間の皆さん。「北朝鮮やテロから国民を守る」「日本人の誇りを持って」と声高に叫ぶ森友学園が私利私欲の塊だったことがはつきりした。安倍首相が無関係でないことは明らかだ。原発も戦争も「働き方改革」も、社会の富を独占している人たちの金儲けのためにある。彼らの支配に有利な状況は、労働者が競争し対立していることだ。

水平分業」は攻撃転籍 総非正規職化への道

「二者択一」は青年にも 必ず突きつけられる

しかし、どの労働組合もこの核心問題を隠し、組合員に徹底抗戦を訴えない。「世代間の

技術継承のため」とされた「エルダー再雇用制度」はどうだろうか？現実には「外注化」を抵抗なく進めるための口実でしかなかった。外注会社の促成ブロー社員ができれば、JR本体のエルダー社員など用済みなのだ。



技術継承のため」とされた「エルダー再雇用制度」はどうだろうか？現実には「外注化」を抵抗なく進めるための口実でしかなかった。外注会社の促成ブロー社員ができれば、JR本体のエルダー社員など用済みなのだ。

大半のエルダー社員は清掃業務や遠距離配転を一方的に提示され「嫌なら辞める」と二者択一を突きつけられている。狭い鉄道業務の枠を争い、醜い競争が展開されている。個別に裏でうまくやるか、二者択一を迫られるかしかないとすれば、労働組合は何のためにあるのか。

この攻撃はこれから間違いない青年たちにも突きつけられる。「関連会社に行くか、嫌なら辞めてよい。仕事はブロー社員がやる」と。転籍に応じたとしても、「ブロー社員と同じように何でもやってもらおう」として「同じ仕事なんだから同じ賃金でやってもらおう」……そうなることが目に見えている。

来年3月末に向けて、非正規雇用1500万人、派遣労働者350万人が一旦雇い止めに

なる。全社会に非正規雇用がまん延し、どんなに働いても明日が見えなくなる。社会には怒りが満ちあふれることだろう。

憲法改悪や共謀罪は、労働者国民の怒りから支配層を守るための方策だ。アメリカを見れば歴然としている。僅かなお金で国民どうしを対立させ、戦争も原発事故も財政破綻も、政府は何の責任も取らない。

福島状況を見て欲しい。原発事故は何も収束していない。再び巨大地震が起きたらどうなるのか。JRは福島第一原発のわきの常磐線を開通させ、人の帰らない地域の「要望」だの「復興」「社会的使命」と言っている。福島の小児甲状腺ガンは185人にのぼり、大人にも異常が出ているのだ。

JRの労働者と労働組合は、目先の利益のために帰還と被曝の強制を黙って見過ごしているのか。労働組合ってそんなものなのだろうか？

辻川副委員長に対する 再びの隔離を許さない！

動労水戸初代委員長で現在は勝田車両センターで働く辻川慎一副委員長は、エルダーの配属先としてMTS水戸事業所を提示された。勝田から水

戸、たった1駅分の配転だ。辻川副委員長は元電車運転士だが、動労水戸結成から一貫して組合員から隔離され、22年間にわたって鉄道業務から排除されてきた。最高裁判決勝利とともに勝田車両センターに配属になったのは52歳。ようやく組合員と合流し、鉄道業務に戻った。

それから7年、年配の組合員だけでなく照沼君をはじめ青年労働者が動労水戸に加入した。会社は鉄道人生最後の5年間を再び組合員から隔離しようとしている。一方的に提示された配転を拒否すれば解雇。これはエルダー社員だけの問題ではない。職場の青年たちがこれから突きつけられることに他ならない。辻川副委員長は現場と水戸支社の提出期限を越えて「納得できる再提示」を求めて署名捺印を拒否し続けている。

口先できれいごとを言っ、自分だけうまく立ち回る。もううんざりじゃないか。仲間と信頼し合い、仲間と共に生きる。それが労働組合だ。乗客を守り、地域の人々と共に福島の人々を守ろう！その力がJRの労働組合にはある。みんな動労水戸と一緒に闘おう！